



芥川龍之介全集

第五卷

昭和三年三月二十日印刷  
昭和三年三月二十五日發行

芥川龍之介全集第五卷

著者 芥川龍之介

發行者 東京市神田區南神保町十六番地  
岩波茂雄

印刷者 東京市本所區番場町四番地  
守岡功

印刷所 東京市本所區番場町四番地  
凸版印刷株式會社本所分工場

東京市神田區南神保町十六番地

發行所 岩波書店

電話 九段(33) 二二〇八番 二二〇九番 二二一〇番  
振替口座東京七四四一六番

第五卷目錄

## 小論文

或惡傾向を排す

起 一頁  
三頁

藝術その他

起 一四頁

小説の戲曲化

起 二三頁

芭蕉雜記

起 二七頁

僻見

起 五二頁

一 齋藤茂吉 二 岩見重太郎 三 大久保潮州 四 木村巽齋

文部省の假名遣改定案について

起 九六頁

「私」小説論私見

起 一〇一頁

發句私見

起 一一〇頁

芝居漫談

起 一一四頁

今昔物語に就いて

起 一一八頁

續芭蕉雜記

起 一二五頁

小品

起一二九頁

創作

起一三一頁

出帆

起一三五頁

蛙

起一四〇頁

黃梁夢

起一四三頁

英雄の器

起一四六頁

女體

起一五〇頁

南瓜

起一五二頁

沼

起一五七頁

東洋の秋

起一六〇頁

饒舌

起一六三頁

着物

起一六七頁

惡魔

起一七〇頁

窓

起一七三頁

尾生の信

起一七六頁

動物園

起一七九頁

鏡

起一九〇頁

下足札

起一九二頁

漱石山房の秋

起一九五頁

漱石山房の冬

起一九八頁

御降り

起二〇二頁

露

起二〇四頁

長崎小品

起二〇五頁

LOS CAPRICHIOS

起二一一頁

我が散文詩

起二二一頁

秋夜 椎の木 虫干 線香 日本の聖母 玄關

鸚鵡

起二二九頁

キユウピッド

起二三二頁

霜夜

起二三五頁

新緑の庭

起二三七頁

微笑

起二三九頁

知己料

起二四二頁

鷺と鴛鴦

起二四四頁

雪

起二四七頁

詩集

起二四九頁

ピアノ

起二五一頁

臘梅

起二五四頁

沙羅の花

起二五五頁

虎の話

起二五六頁

二人の友

起二六〇頁

横須賀小景

起二六三頁

嚙語

起二六五頁

〇君の新秋

起二六七頁

鬼ごっこ

起二七二頁

僕は

起二七四頁

或る社會主義者

起二七七頁

塵勞

起二八〇頁

春の夜は

起二八二頁

素描三題

起二八六頁

機關車を見ながら

起二九一頁

凶

起二九五頁

鵠沼雜記

起二九七頁

## 紀行

起三〇一頁

軍艦金剛航海記

起三〇三頁

槍ヶ嶽紀行

起三一三頁

## 觀劇記

起三二一頁

「結婚の前」の評判

起三二三頁

新富座の「一谷嫩軍記」

起三三〇頁

有樂座の「女殺油地獄」

起三三五頁

帝劇の露西亞舞踊

起三三八頁

市村座の「四谷怪談」

起三四二頁

金春會の「隅田川」

起三四九頁

寄席

起三五四頁

Gaiety 座の「サロメ」

起三五八頁

劇評一束

起三六五頁

九年一月明治座評 九年十月市村座評 九年十一月明治座評

十年一月帝國劇場評 十年二月歌舞伎座評

## 月旦

起三七七頁

## わが月評

起三七九頁

一大正八年六月の文壇 二大正九年四月の文壇

## 大正八年度の文藝界

起三九五頁

## 大正九年度の文藝界

起四一二頁

## 人物記

起四二一頁

## 樗牛の事

起四二三頁

## 岩野泡鳴氏

起四二八頁

## 豊島與志雄氏

起四三〇頁

## 久米正雄氏

起四三三頁

## 菊池寛氏

起四三五頁

谷崎潤一郎氏

起四三七頁

佐藤春夫氏

起四三八頁

江口渙氏

起四三九頁

南部修太郎氏

起四四二頁

近藤浩一路氏

起四四四頁

龍村平藏氏の藝術

起四四六頁

小杉未醒氏

起四四九頁

森先生

起四五一頁

恒藤恭氏

起四五二頁

久米正雄氏

起四五六頁

谷崎潤一郎氏

起四五八頁

佐藤春夫氏

起四六〇頁

久保田万太郎氏

起四六二頁

正岡子規

起四六五頁

假面の人々

起四六八頁

宇野浩二氏

起四七〇頁

室生犀星氏

起四七二頁

學校友だち

起四七四頁

田端人

起四七九頁

飯田蛇笏氏

起四八二頁

薄田泣菫氏

起四八五頁

瀧田哲太郎氏

起四八九頁

瀧田哲太郎氏

起四九一頁

剛才人と柔才人と

起四九四頁

島木赤彦氏

起四九五頁

萩原朔太郎氏

起四九七頁

僕の友だち二三入

起五〇一頁

内田百閒氏

起五〇四頁

## 書籍批評

起五〇五頁

「女と影」讀後

起五〇七頁

「續晉明集」讀後

起五一〇頁

「高麗の花」讀後

起五一四頁

「太虚集」讀後

起五一八頁

「ふゆくさ」讀後

起五二二頁

「鏡花全集」に就いて

起五二五頁

「輪廻」讀後

起五二八頁

「獄窓から」讀後

起五三一頁

「庭苔」讀後

起五三四頁

## 序跋

起五三七頁

「心の王國」の跋

起五三九頁

「井月句集」の跋

起五四四頁

「一茶句集」の後に

起五四六頁

「菊池寛全集」の序

起五四八頁

「文藝趣味」の序

起五五二頁

「春の外套」の序

起五五五頁

「若冠」の後に

起五五七頁

「未翁南甫句集」の序

起五五九頁

「蕪村全集」の序

起五六一頁

「笑ひきれぬ話」の序

起五六三頁

「新作仇討全集」の序

起五六四頁

「道芝」の序

起五六八頁

「我が日我が夢」の序

起五七一頁

自序跋

起五七三頁

「羅生門」の後に「影燈籠附記」「夜來の花附記」「點心」自序

「春服」の後に「普及版春服」の前に「黃雀風」の後に“ The Modern

Series of English Literature ”の序「近代日本文藝讀本」の序

「梅・馬・鶯」小序

目錄

起五九三頁

田端日記

起五九五頁

我鬼窟日錄

起六〇三頁

長崎日錄

起六一一頁

澄江堂日錄

起六一六頁

輕井澤日記

起六一八頁

晚春賣文日記

起六二一頁

翻譯

起六二五頁

バルタザアル Anatole France

起六二七頁

「ケルトの薄明」より W. B. Yeats

起六四七頁

春の心臓 W. B. Yeats

起六五四頁

パステルの龍 Judith Gautier その他

起六六一頁

ババベツクと婆羅門行者 Voltaire

起六六六頁

翻譯小品 Butler その他

起六七一頁

## 發句

起六七五頁

## 短歌

起六八七頁

## 詩

起七〇一頁

山吹

起七〇三頁

洞庭舟中

起七〇三頁

Melancholia

起七〇四頁

ひとりあるもののうたへる

起七〇五頁